

教科	芸術	学科	商業科 事務情報科	学年	1	年	必修修科目
科目	音楽Ⅰ			単位数	2	単位	
使用教科書	音楽Ⅰ Tutti+ (教育出版)			副教材	混声合唱曲集 クラス用“キミウタ”(教育芸術社)		

学校教育目標	高い志を立て、自己を練磨し、社会に貢献する人間の育成(立志・練磨)							
育成を目指す 資質・能力	基盤的学力	○	協働力	○	論理的思考力		傾聴力	
	表現力	◎	判断力	○	考察力	○	情報活用能力	○
	基礎的読解力		創造力	○	洞察力		継続力	○
	自己管理能力		共感力	○	自己実現力		復元力(折れない心)	
学習の到達目標	・様々な音楽に触れ興味を持ち、曲想や音楽の構造、文化的・歴史的背景などとの関わりを理解する。							
	・自己のイメージを持って音楽表現をし、創意工夫を活かした音楽表現をするために必要な技能を身につける。							
	・音楽を評価しながら、その良さや美しさを味わって聞く事ができる。							
	・							

★評価規準	A: 十分満足できる	B: 概ね満足できる(基準)	C: 努力を要する
★単元ごとの評価規準	★4月～6月下旬までの学習内容		
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
創意工夫をいかした表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音の使い方などの技能を身に付けている。	音楽を形づくっている要素や要素同士の間連を覚識し、それらの働きを感じながら、どのように表すかについて表現意図をもっている。	正しい技能を身に付けて表現を創意工夫することに関心をもち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。	
★何で評価するか ・小テスト ・実技試験	★何で評価するか ・ワークシート	★何で評価するか ・ワークシート ・単元振り返りシート	

【学習計画】		
月	単元	学習の目標(評価の観点: 評価方法)
4	○オリエンテーション ○表現(歌唱) 校歌、ポップス ○楽典 楽譜と音符	・1年間の音楽Ⅰの学習について理解する。 ・校歌を覚え、桂陽高校の一員としての自覚を持つとする。 親しみやすいJ-POPの歌を通して高校の音楽学習への意欲を養う。 ・写譜を行う。また、楽譜を読むための基礎になる音符、休符について理解する。
5	○鑑賞 オーケストラの魅力を探ろう	オーケストラの様々な楽器の音色や響き、リズムの繰返しに乗せた二つの旋律が様々な楽器やその組み合わせによって展開されながらもたらし表現上の効果を理解し、そのよさや美しさを自ら味わって聴く。
6	○表現(創作) テーブル・ミュージックを楽しもう	・身体の様々な部位を使って音色を工夫したり、構成を工夫したりしながら表したいイメージをもってテーブル・ミュージックをつくって演奏する。

★単元ごとの評価規準		★7月上旬～9月下旬までの学習内容					
①知識・技能		②思考・判断・表現			③主体的に学習に取り組む態度		
創意工夫をいかした表現をするために必要な表現形態の特徴や、曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解し、表している。		音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、どのように表すかについて表現意図をもっている。			正しい技能を身に付けて表現を創意工夫することに関心をもち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。		
★何で評価するか		★何で評価するか			★何で評価するか		
・定期考査 ・実技試験		・定期考査 ・ワークシート			・ワークシート ・単元振り返りシート		
7	○表現(器楽) リコーダー	・リコーダーの基本的な奏法を身につけ、楽器の音色や奏法の特徴を生かし、曲想にあった音楽表現を工夫して、イメージを持って演奏する。					

自己評価			実際評価		
観点			観点		
①	②	③	①	②	③

自己評価			実際評価		
観点			観点		
①	②	③	①	②	③

8	○鑑賞 西洋音楽の源流を耳でたどろう	・キリスト教と結びついて発展してきた西洋音楽の源流を中世からルネッサンスの音楽の鑑賞と文化的・歴史的背景の学習で辿り、そのよさや美しさを自ら味わって聴く。
9	○前期期末考査 ○表現(歌唱) 諸外国の歌曲 ○楽典 発想記号や強弱記号	・諸外国の歌曲に触れ、言葉の特性に関心を持ち、アクセントや子音・母音の扱い、語感の違いなどを生かして表情豊かに歌う。 ・履修曲の演奏曲に関わる音楽記号などについて理解する。

★単元ごとの評価規準			★10月上旬～3月下旬までの学習内容						自己評価			実際評価		
①知識・技能			②思考・判断・表現			③主体的に学習に取り組む態度			観点			観点		
創意工夫をいかした表現をするために必要な表現形態の特徴や、曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解し、表している。			音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、どのように表すかについて表現意図をもっている。			正しい技能を身に付けて表現を創意工夫することに関心をもち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。			①	②	③	①	②	③
★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・実技試験			★何で評価するか ・定期考査 ・ワークシート			★何で評価するか ・ワークシート ・考査前後の振り返りシート								
10	○表現(歌唱) 諸外国の歌曲 ○楽典 発想記号や強弱記号		・諸外国の歌曲に触れ、言葉の特性に関心を持ち、アクセントや子音・母音の扱い、語感の違いなどを生かして表情豊かに歌うことができる。 ・履修曲の演奏曲に関わる音楽記号などについて理解する。											
11	○表現(器楽) ギター ○表現(創作)		・ギターの基本的な奏法を身に付け、楽器の音色や特徴を活かして音楽表現を工夫して演奏する。 ・音の重なりによる響きの特徴について、表したいイメージと関わらせて伴奏を作る。											
12	○表現(歌唱) 混声合唱		・混声合唱の響きを味わいながら他者との調和を意識して歌う。また、曲想が歌詞の内容や作曲者の思いなどによってもたらされていることを理解しながら歌唱表現を創意工夫する。											
1	○鑑賞 日本の伝統的な音楽 世界のさまざまな音楽の魅力		・世界の諸民族の様々な声の音楽から音楽表現の多様性を捉えるとともに、諸民族の声の音楽と日本民謡の比較を通して音楽表現や音楽文化の固有性、共通性を考える。											
2	○表現(歌唱) 卒業式式歌の合唱 ○学年末考査		・混声合唱の響きを味わいながら他者との調和を意識して歌う。											
3	○鑑賞 総合芸術における音楽の魅力		・オペラやミュージカルなどの総合芸術において物語と音楽が関わり合いながらどのような表現上の効果をもたらしているか、音楽と他の文化が互いにどのように影響を合って発展してきたかを考える。											

★最終評価総括(自己評価/実際評価)						自己評価総括			実際評価総括		
①知識・技能		②思考・判断・表現		③主体的に学習に取り組む態度		①	②	③	①	②	③
◎前期振り返り					◎後期振り返り					▶備考	